

令和6年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 北方 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、6年生を対象として、令和6年4月18日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（4月10日から4月30日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数）

教科に関する調査（国語、算数）	
①	身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②	知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査	
<input type="radio"/>	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

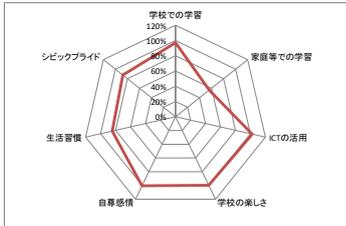
(1) 全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

本年度の結果	国語		算数	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	9.6	60
全国	9.5	68	10.1	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができている。一方、学年別漢字配当表に示されている漢字や送り仮名に注意して文の中で正しく使うことを苦手としている児童が少なくない傾向がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	目的や意図に応じて、分類したり関係付けたりして、伝えたいことを明確にすることができるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる問題	
算数	全体的な傾向や特徴など	数量の関係を、□を用いた式に表すことができる。図形の問題では、見取り図などの関係を理解している。一方、計算問題には取り組めるものの、文章問題を正しく読み取れなかったり、読み飛ばしたりしてしまう傾向がある。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問題	
	努力が必要な問題	道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要



質問調査の結果分析	
・	「友達関係を満足しているか」との問いに対して約90%の児童が肯定的に回答している。先生が褒めてくれていると感じる児童が90%以上おり、引き続き豊かな人間関係を育めるようとする。
・	「授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか」の問いに対して約80%の児童生徒が肯定的に回答している。授業が児童の自己有用感等に影響を与えている可能性があるため、今後も学校全体で授業改善を進め、児童が「わかった」「おもしろい」と思える授業にできるようにする。
・	「家庭学習においてICTを活用している」と回答した割合が低かった。今後は、個に応じた指導の場面や英語の学習等でも活用できるように啓発していく。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

国語科では、漢字の練習を継続的にを行い、自らの力になるように支援を続ける。自分の考えをまとめて書く学習のときに「短文で書いてみる」「型に当てはめて書いてみる」「友達が書いたものを参考にする」など、スモールステップを設定し、学びが積み重なるようにする。算数科では、スモールステップでの学びに加え、少人数指導や個別指導を積極的に導入する等、個に応じた指導を充実させていく。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家庭学習については、プリントやワーク等の指題に着実に取り組めるように声をかけ、予習・復習になる内容を学年で検討し実施するようにする。規則正しい生活習慣になるようにゲストティチャーを招きながら、様々な特別授業を実施し、健康について考える機会を多く設ける。